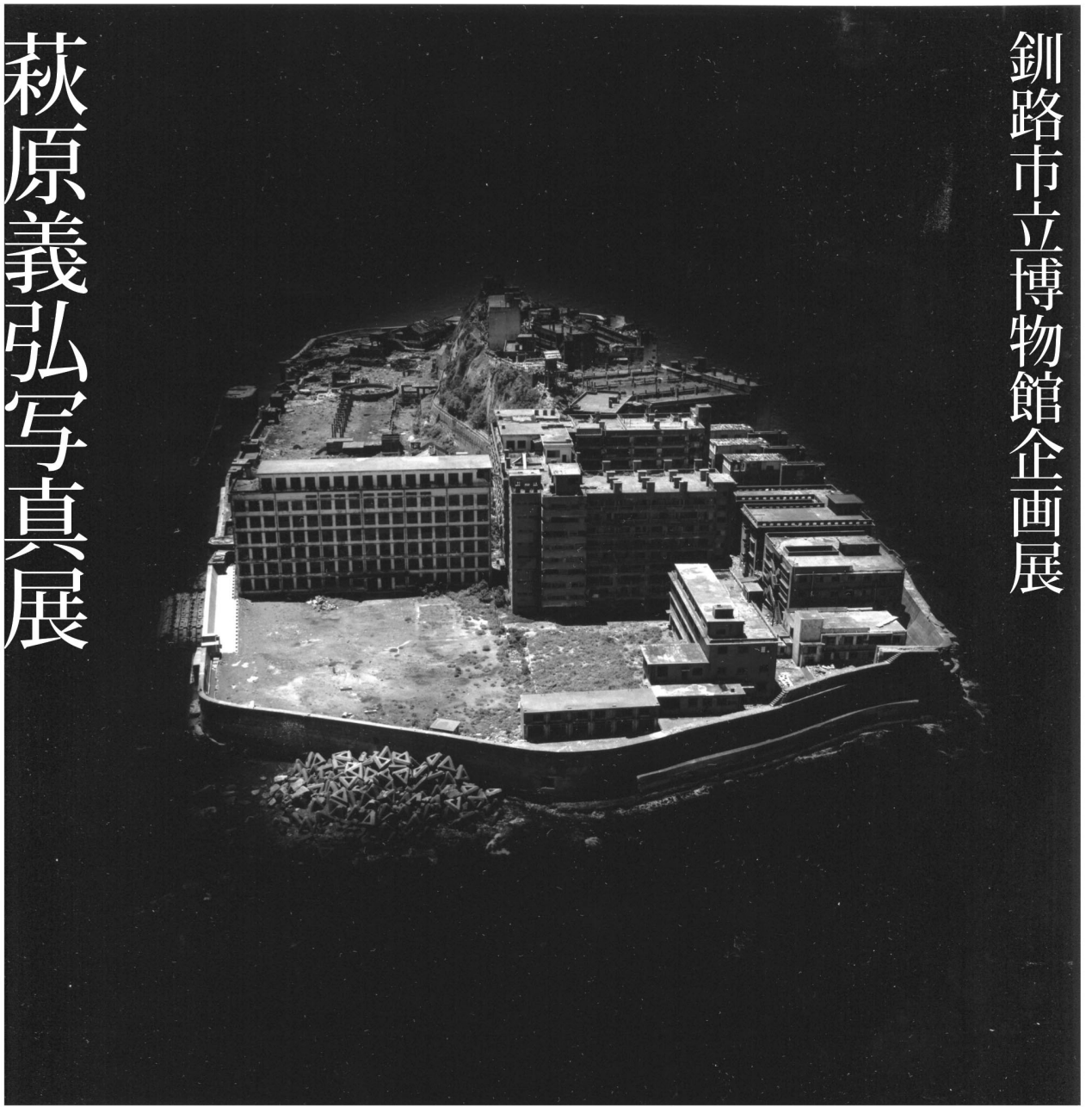


釧路市立博物館企画展

萩原義弘写真展

ヤマに在りヤマへ還る



端島炭鉱（軍艦島）／長崎県長崎市

10月3日[土]▶11月15日[日]  
釧路市立博物館マンモスホール  
《入場無料》

# 釧路市立博物館

会期中休館日 | 10月：5日(月)・13日(火)・19・26日(月)  
11月：2日(月)・4日(水)・9日(月)

常設展入館料 | 一般・大学生 470円 高校生 250円 小・中学生 110円

開館時間 | 午前9時30分～午後5時 (常設展入場は午後4時30分まで)

〒085-0822 釧路市春湖台 1-7

Tel | 0154-41-5809 Fax | 0154-42-6000

mail | [museum@city.kushiro.lg.jp](mailto:museum@city.kushiro.lg.jp)

HP | <http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/>



2016年  
博物館は  
創立80周年  
を迎えます





本岐炭鉱／北海道白糠町

萩原 義弘 (はぎわら よしひろ)

1961年 群馬県高崎市生まれ  
 日本大学芸術学部写真学科卒業  
 毎日新聞社出版写真部を経てフリー  
 現在、日本大学芸術学部写真学科非常勤講師

[受賞]

2001年 さがみはら写真新人奨励賞  
 2010年 第26回写真の町東川賞特別作家賞

[主な展覧会]

1983年 沈黙の炭鉱・夕張は今(銀座ニコソロン/東京)  
 1999年 巨幹残栄(ヘルテン国際写真フェスティバル/ドイツ)  
 2000年 巨幹残栄・東日本編(コニカプラザ/東京)  
 2001年 SNOWY(ライトワークス/横浜市)  
 2002年 巨幹残栄・SNOWY(新宿ニコソロン/東京)  
 2004年 炭鉱(ヤマ)へのまなざし—常磐炭田と美術—  
 (いわき市立美術館/いわき)  
 2006年 SNOWY II(パストレイズM/A丸ノ内/東京)  
 2009年 文化・資源としての炭鉱展(目黒区美術館/東京)  
 2010年 第26回写真の町東川賞受賞作家展(文化ギャラリー/東川)  
 2011年 ヤマに在りヤマへ還る  
 (アルテピアッツァ美唄ギャラリー/美唄市)  
 2012年 SNOWY(アンコール・フォトフェスティバル/カンボジア)  
 2013年 炭鉱から(ポレポレ東中野/東京)  
 黒い屋根・炭鉱住宅の記憶(ギャラリーコールピット/いわき)  
 2014年 SNOWY II(ギャラリー冬青/東京)

[写真集・著作]

『巨幹残栄・忘れられた日本の炭鉱』 窓社  
 『SNOWY』『SNOWY II』 冬青者  
 『にっぽん木造駅舎の旅100選』 平凡社

[コレクション]

相模原市/日本大学芸術学部芸術資料館  
 夕張市石炭博物館/沖縄県立博物館・美術館/東川町

1981年に起きた北炭夕張新炭鉱の事故を契機に  
 炭鉱や鉱山(ヤマ)をテーマとして撮影を続けてきました。

現在、釧路コールマイン以外のほとんどの炭鉱は閉山し、金属鉱山も数えるばかりとなっています。  
 閉山して人々が去ったヤマは、しだいに自然へと還り、その記憶さえもなくなりつつあります。

「記録されたものしか、記憶にとどめられない」と民俗学者の宮本常一は言っています。

私は、写真にはその力があると信じています。

そして、日本の近代化、戦後復興を支えた産業を後世に残すためにも、  
 ヤマを記録し作品化する意義があると思います。

世界遺産となる軍艦島や雪に覆われた北海道の炭鉱跡など、  
 30年以上にわたり撮影してきた写真を展示します。

アーティストトーク(博物館友の会講演会)

「炭鉱を撮り続ける意味」

萩原義弘(写真家)

日時 | 11月8日[日]午後1時30分-3時30分

会場 | 博物館講堂 申込不要・入場無料



## 釧路市立博物館

〒085-0822 釧路市春湖台1-7  
 Tel | 0154-41-5809 Fax | 0154-42-6000  
 Mail | museum@city.kushiro.lg.jp

交通案内

市立病院バス停から徒歩約5分です。  
 釧路駅から「市立病院経由」と表示された  
 以下の路線をご利用ください。

《くしろバス》

2 若草団地線 / 12 文苑・公住線(緑ヶ岡方面)  
 17 白樺線 / 30 昆布森線  
 55 南北線(若草団地方面)



小田炭鉱／福島県いわき市